

BACKGROUND

Questions

1. 世界にはいくつの国がある？

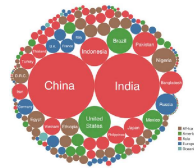
- A. 55 カ国
- B. 196 カ国
- C. 758 カ国



2. 世界にはどれぐらいの人が住んでいる？

- A. 約 25 億人
- B. 約 80 億人
- C. 約 120 億人

Countries by Population Size



3. 世界にはいくつの言語がある？

- A. 75 種類
- B. 218 種類
- C. 6900 種類



知
つ
て
る
？

「言語」と「方言」の境界は言語学的というより政治的歴史の経緯によって生じます。「バナナ 2 キロください」はスペイン語とイタリア語でそれぞれ以下のように言います。

スペイン語：Dos kilos de bananas, por favor.
(ドスキロスデバナナス，ボルファヴォール)

イタリア語：Due kilos de bananes, per favore.
(デュエキロスデバナネス，ペルファヴォーレ)

関西弁と東北弁よりスペイン語とイタリア語の方が似通っているかもしれませんね。

Group Discussion

みんなで解決しなければならない問題にはどういう問題がある？グループで考えてみよう。例えば、以下をヒントに考えてみよう。「自然界」「動物たち」「人々の生活（食べ物・健康・お金・暮らしぶり）」など。

世界が直面する問題

ユニセフは世界が直面する問題として以下をリストしています。どれが最も深刻な問題か、どれが解決できそうな問題かなどグループで考えてみましょう。

- ・ 数十億人ものが貧しい暮らしを強いられ、尊厳が守られていないこと。
- ・ 国内でも、国際的にも、不平等が増していること。
- ・ さまざまなチャンス、富や権力に、大きな格差があること。
- ・ ジェンダーの平等が、達成されていないこと。
- ・ 失業、特に若い人たちが仕事につけないこと。
- ・ 地球規模で、健康に害をおよぼす問題があること。
- ・ ひんぱんに、そして非常に大きな自然災害が起こること。
- ・ 紛争が激化し、暴力的な過激主義やテロが広まり、人道危機が起きたり、多くの人びとが住む場所を追われていること、そして、これらがこれまでの進展を後もどりさせてしまうおそれがあること。
- ・ 天然資源の減少、砂漠化、干ばつ、土壌の悪化、淡水の不足、生物の多様性が失われること（そして、これら環境の悪化がさらにわたしたちの課題を増やしていること）。
- ・ 気候変動がすべての国の持続可能な開発の達成を難しくしていること。
- ・ 気候変動がもたらす、世界的な気温の上昇、海面の上昇や海の酸性化などが、もっとも開発が遅れている国々に、小さな島国、海の沿岸や低い地域にある国々に深刻な影響を与えていること。
- ・ （これらの問題のために）多くの人々の社会や、地球が生物を支えている仕組みが、存在し続けられなくなる危機にあること。



SDGs って何だろう？

こうした問題に対して、国連が本格的に取り組む決意を表明したのが SDGs です。ここで注目する SDGs は Sustainable Development Goals の頭文字を合わせた表現です。

ユニセフ（UNICEF [United Nations International Children's Emergency Fund]：国際連合国際児童（緊急）基金）では、SDGs を端的に以下のように説明しています。



誰ひとり取り残されることなく、
人類が安定してこの地球で暮らし続けることができるように、
世界のさまざまな問題を整理し、解決に向けて具体的な目標を示したのが、
SDGs（持続可能な開発目標）です。
2015年に国連で採択され、国際社会は一致団結して、
2030年を目指してこの目標を達成しよう、と合意しました



探究活動の進め方

SDGsには17個の目標（SDG）が設定されています。それぞれを取り上げ、以下の方法でプロジェクトを行いましょう。

- 1 何であるか**：ユニセフの「持続可能な世界への第一歩：SDGs Club」^(注) <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/preamble/> を読んで現状を知る。
- 2 何ができるか**：それぞれの目標について、個人や集団で何ができそうか考える。
- 3 何をすべきか**：ディスカッションを通して、「何をすべきか」をグループで選ぶ。
- 4 どう実行に移すか**：すべきことをどうやって実行に移すことが可能か。



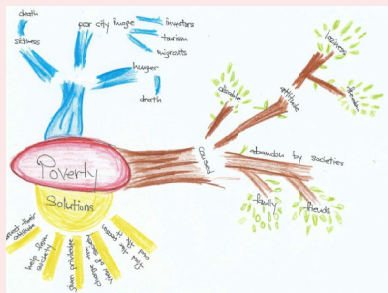
“地球上のあらゆる形の貧困をなくそう”

何であるか

まず、「貧困」について自由に連想を広げて、自分なりのマインドマップを作成してみよう。



“poverty”の mind map 例 (イメージ)



ユニセフが示す情報

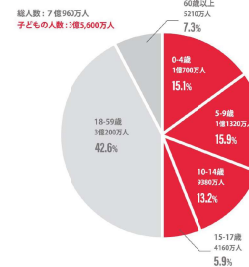
ユニセフが示す情報に基づいて、「Povertyは何であるか」を考えよう。

たとえば、こんな問題が…



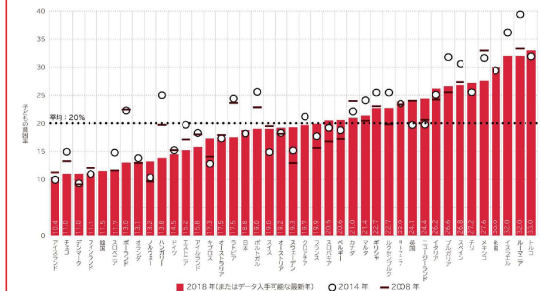
世界では、6人に1人(3億5600万人)の子どもたちが、「極度にまずしい」暮らしをしています。

先進国での貧困の問題



極度の貧困状態(1日あたり1.90米ドル以下)で暮らしている人は7億960万人、そのうち約半数が子どもで、3億5600万人にのぼります。

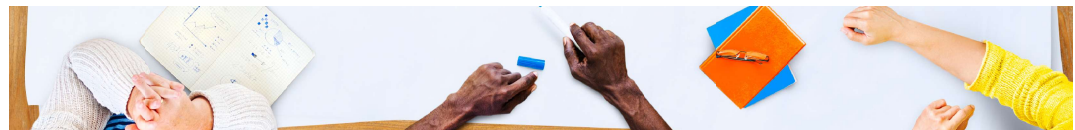
きわめて貧しい暮らしを強いられる人びとの数



先進国の子どもの平均5人にひとりが相対的貧困下に暮らす。世帯所得が中央値の60%に満たない世帯に暮らす子ども(0歳~17歳)の割合(2008年、2014年、2018年)

何ができるか

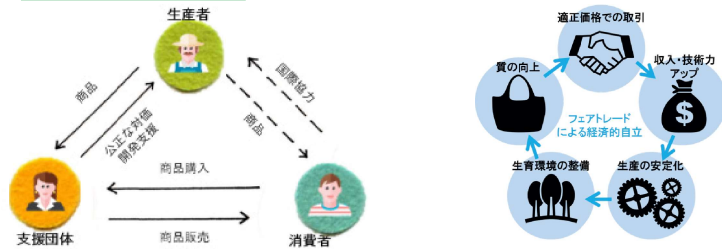
貧困を終わらせる(To End Poverty)という目標に対して、現実的に何ができるかについて、グループ内で知恵を出し合ってみよう。



アイデアの例

- ・ 誕生日に誕生日プレゼントではなく、プレゼント代の寄付をする。
- ・ 貧困国に寄付している店で買いものをするようにする。
- ・ **フェアトレード**の産物を買うようにする。
- ・ 最貧国の子どもたちとボランティアの人を通して繋がる。
- ・ 世界の貧困の現状を調べ、ディスカッションをし、**ブログ**を書いて意見を広める。
- ・ **ふるさと納税**のような寄付金がどこに行き、何の目的に使われるかがわかるような寄付の仕組みを作る。

フェアトレードのしくみ



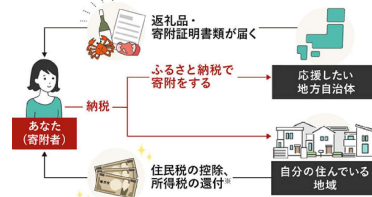
フェアトレードのしくみについて、身近な例でおおまかに説明してみよう。

ブログ

web (ウェブ) + log (日誌) = weblog から短縮して blog となった。自分が関心を抱くトピックについて意見を記して、インターネット上に公開したもの。



ふるさと納税のしくみ



※「ワンストップ特例制度」をご利用の場合は、所得税の還付はなく、すべて住民税からの控除となります。

自分や親類や知人が住んでいる都道府県であれば、どのような品物でふるさと納税ができるだろうか。



何をすべきか

どの方法が効果的か、どの方法が現実的か、どの方法が持続可能か？ ディスカッションで出てきたアイデアの中から1つを選ぼう。そして、それがどうして有効かについて理由を述べよう。

選択したアイデア

このアイデアが有効と思われる理由

[例]

アイデア

世界の貧困の現状を調べ、ディスカッションをし、ブログを書いて意見を広める。

理由

問題には、事実としての問題があり、実感できる問題があり、共感できる問題がある。事実 (統計や事例) を示されただけで、行動に移せる人はあまりいない。それぞれの立場で問題意識をもつことが大切である。各個人でより深く調べ (リサーチをして)、グループのディスカッションを通して、共感が得られれば、次のアクションに移ることもできる。そのきっかけのひとつとして、ブログの活用があげられる。共感の輪を広げることで、問題解決に寄与できるような力が生まれる可能性もひらけてくる。自分たちの立場を表現することで、それに共感する人々が増えてくる。共感の力は、ステークホルダー (利害関係者) たちを動かす。



それをどう実行に移すか

上記のアイデアを実行に移すにあたり、留意点をディスカッションしよう。

留意点

[例]

留意点

- ・ 自分たちの思いをしっかりとコトバとして表現する。コトバに説得力を持たせるため、事実を示すと同時に、それをどう意味づけしたかを表現する。
- ・ ブログのしくみを研究する。どのようにすれば多くの読者に読まれるか？ パワーブロガーを引き込む？
- ・ *ブログ記事に対する読者の反応にどう対処するかを考える。書きっぱなしだと、インパクトにはならない。

*例えばウェブサイトの閲覧 (訪問)、コメントの投稿、「いいね」、ブログ記事を共有 (シェア) → シェアされた SNS 上 (Facebook, Twitter, Instagram, etc.) での要なる反応 (拡散)

2 ZERO HUNGER



“ 飢えをなくし、だれもが栄養のある食料を十分に手に入れられるよう、地球の環境を守り続けながら農業を進めよう ”

何であるか

まず、「飢餓・餓え」をキーワードに立てて、マインドマップを作成してみよう。



“hunger” の mind map 例 (イメージ)



ユニセフが示す情報

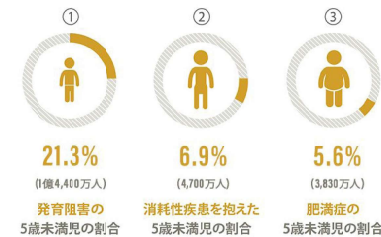
ユニセフが示す情報に基づいて、「Zero Hunger は何であるか」を考えよう。

たとえば、こんな問題が…



世界を生徒 40 人の教室と考えると、その日食べるものがない、明日以降も食べ物をえられるか分からない状態の人が 4 人もいます。

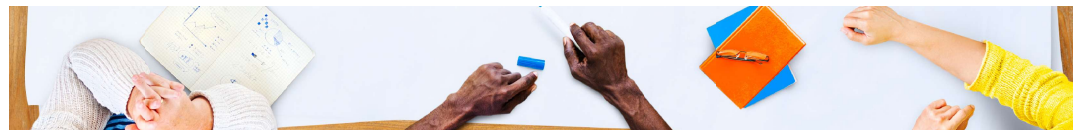
いろいろなかたちの栄養不良



栄養不良は食べ物が不足していることだと思われがちですが、単に量が足りないということではなく、必要な栄養が不足していたり、とっている栄養のバランスが悪かったりすることを意味します。栄養不良は、からだの成長や健康に影響をおよぼします。

何ができるか

ここでの目標に対して、現実的に何ができそうかについて、グループ内で知恵を出し合ってみよう。



アイデアの例

- ・ 食料援助プログラムの実施。
- ・ 地産地消という消費活動の実践。
- ・ フードバンクに傷まないものを送る。
- ・ フードロス問題について調べて、何がきるか考えてみる。(→ SDGs12 とも関連する)

フードバンクのイメージ



企業、農家、個人単位でフードバンクにどんな食品が送れるだろうか。

食品ロス (food loss & waste)



食品ロスにどのようなものがあるか。どうやったらそれを減らせるか。小売、外食、家庭などに分けて考えてみよう。



何をすべきか

どのアイデアが効果的か、どのアイデアが現実的か、どのアイデアが持続可能か？ ディスカッションを通じて、ひとつのアイデアに絞り込んでよう。そして、それがどうして有効かについて、理由を述べよう。

選択したアイデア

このアイデアが有効と思われる理由

[例]

アイデア

フードロス問題について調べて、何がきるか考えてみる。

理由

フードロスという現象は世界中のすべての人々にとって身近な問題であり、日常生活の中で取り組むことができる。人は誰でも命をつなぐために日々食事をしなければならぬが、比較的豊かな人々の食生活におけるムダを減らすことで、餓えというグローバルな問題の解決に貢献できるのではない。



それをどう実行に移すか

上記のアイデアを実行に移すにあたり、いくつかの具体的な観点からディスカッションしてみよう。

留意点

[例]

留意点

- ・ 個人、家庭内でできることにどのようなことが考えられるか。
- ・ 食品を販売する業者の取り組みとしてどのようなことが考えられるか。
- ・ 食のムダをなくす習慣づけのモチベーションを高める工夫としてどんなことが可能か。
- ・ 食のムダを省くことから飢えの問題への取り組みへは、どのように接続されるのか。
- ・ 社会全体のフードロスへの意識を高める工夫としてどのようなことが可能か